

手外科領域の疾患 ⑥

橈骨遠位端骨折

整形外科部長兼手術部長 中村 恒一

今回は中年以降の女性に多い外傷の、橈骨遠位端骨折についてご説明します。

骨粗しょう症を有する閉経後の女性が転んで手をつくことで骨折することが多いです。骨粗しょう症による大骨折(大たい骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折、橈骨遠位端骨折)の一つです。若い人でも転んで強い力が加われば骨折します。手首の腫れ、痛みが生じます。

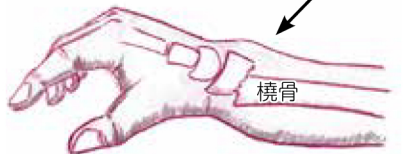
診断にはレントゲン撮影が必要になります。

骨折の程度が軽い場合は、徒手整復(手を引っ張つてもとの形にもどす)した後、ギプス固定が4週から6週必要になります。骨折の程度が強い場合や、ギプスですれが生じてしまうような場合は手術が必要になります。プレートとスクリューで骨折部を固定する方法が主に行われます。適切な治療を行えば手の機能は元に戻ります。また、骨粗しょう症の治療を行うことで、腰椎の圧迫骨折や大たい骨の骨折を予防することがあります。

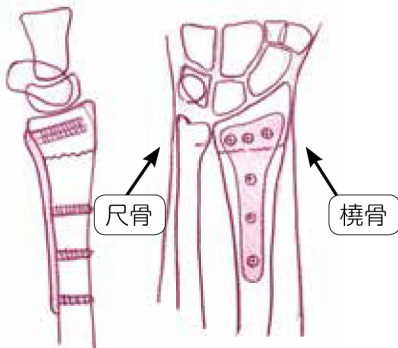


転んで手をつくことで生じます。

橈骨の遠位部が骨折します。



手首の腫れと痛み、変形が生じます。



【手術 (プレート固定) による治療】



【ギプス固定による治療】